

2025 ジャパンパラ水泳競技大会

競技上の注意事項

1 競技要領と競技方法

- ・ 本大会では、クラス S1/SB1/SM1～S14/SB14/SM14 は WPS 水泳競技規則による。国際クラスに該当しない視覚障がいと肢体不自由の選手のクラスは、クラス S21/SB21/SM21 として実施し、WPS 水泳競技規則を準用する。S15/SB15/SM15 は世界水泳連盟競泳競技規則による。
- ・ WPS 水泳競技規則は、WPS ホームページ(<http://www.paralympic.org/swimming/rules-and-regulations>)に掲載されている。
- ・ 内容の主なものについては(一社)日本パラ水泳連盟(JPSF)ホームページ(<http://paraswim.jp/>)に掲載の JPSF 競技運営指針競技規則の項目を参考にされたい。
- ・ 本大会は 3 日間での開催とし、それぞれの日で予選・決勝を行う。全ての選手は、予選のレースを泳がなければ、クラス別決勝レースに出場できない。
- ・ 決勝レースには、予選において上位 8 位までの選手が出場できる。ただし、予選出場者が 8 名以下の種目の競技は、予選で失格せずに泳いだ選手が、記録に関わらず決勝レースに出場できる。
- ・ 決勝進出は、同記録で予定人員を超えた場合、スイムオフを行う。該当する選手は、その種目結果の公式掲示(公表)時間から 15 分以内にリゾリューションデスクに来ること。なお、補欠が同記録で複数いる場合は、抽選を行う。
- ・ 計時のバックアップは半自動計時装置を使用する。
- ・ ゴールタッチはタッチ板の有効面に確実にタッチすること。
- ・ バックプレート、バックストロークレッジ付のスタート台を使用する。調整は各自行い、確実に固定されていることを確かめること。
- ・ 聴覚障がいの選手のスタートは、光刺激式スタート合図システムを使用する予定である。システムの不具合等が発生した場合は、ハンドシグナルとフラッシュライトにより行う。
- ・ 予選は組のみの紹介とし、決勝はゲートから入場し、選手紹介を行う。
- ・ 失格による抗議は、公式結果公表後 30 分以内に所定の様式(抗議用紙)に必要事項を記入の上、抗議料 20,000 円(現金のみ)を添えて、リゾリューションデスクに提出すること(失格の理由を聞くことは抗議ではない)。抗議が却下された場合、抗議料は(公財)日本パラスポーツ協会の所有となる。
- ・ 本大会では、上訴審判団は設置しないが、抗議の判定による上訴が可能であり、判定後 30 分以内に所定の様式(上訴用紙)に上訴料 30,000 円(現金のみ)を添えて、リゾリューションデスクに提出すること。大会総務により上訴が却下された場合、上訴料は(公財)日本パラスポーツ協会の所有となる。上訴が認められた場合、抗議と上訴両方の供託金が返金される。

2 スタートリスト

- ・ 予選のスタートリストは、プログラム及びジャパンパラ競技大会(<https://www.parasports.or.jp/japanpara/index.html>)、JPSF ホームページ及び(一社)日本知的障害者水泳連盟(JSFP)ホームページ(<https://jsfpid.com/>)に掲載する。決勝のスタートリストは、予選終了後、速やかに速報所に掲示する。また、ジャパンパラ競技大会、JPSF ホームページ及び JSFP ホームページに掲載する。
- ・ 予選は、種目ごとのエントリータイム順に原則として女子・男子の順に行う。
- ・ 決勝は、種目ごとに原則として女子・男子、クラス別に行う。

3 招集

- ・ 予選と決勝において競技者(決勝補欠選手を含む)は、公表された各自のレース開始時間の 15 分前までに招集所に行かなければならない。招集所にはレースに出場する選手、介助者 1 名のみ入ることができる。なお、棄権の場合は、レース開始予定時刻の 1 時間前までに所定の用紙(棄権届出用紙)に必要事項を記載の上、リゾリューションデスクに届けること。

- ・ 各選手は、自レーンで脱いだ衣類等をすべて設置してあるカゴに置くこと。その際、義足等退水時に必要なものはカゴに入れないこと。
- ・ 各種目決勝に進出した選手は、決勝の招集所に来る際にジャージ等を必ず着用すること。水着のみで招集所に来ることはできない。また、選手入場の際に必ず着用すること。その際、「本項13」記載のジャージ等の所属名についても注意すること。なお、ジャージ等とはTシャツ等も含む。

4 デッキアクセス等(介助申請)

- ・ スタートリストにコードオブエクセプション(以下 CoE とする)「A」、「T」、「Y」の記載がある選手は、必要な介助のために介助者が競技エリア内に入場できる。これらの CoE を持たない選手においては、介助者が競技エリア内に入場するためには、各セッション開始時刻の1時間前までに競技エリア内入場申請をし、認められなければならない。(申請用紙は選手受付で配布、リゾリューションデスクへ提出)なお、今大会では競技役員による介助は行わないので、介助者(タッパー含む)は選手側で準備すること。また、S14/SB14/SM14 クラスの介助申請や競技エリア入場許可申請は認められない。申請用紙はジャパンパラ競技大会及び JPSF ホームページからもダウンロードできる。

5 スタート

- ・ スタートは1回のみとし、やり直しは行わない。他の選手がフォルススタートを行った場合でも、出発合図員の号砲でスタートすること。
- ・ 水中スタートをする選手は、審判長の短い笛の合図で水中に入り、競技規則に沿ったスタート姿勢をとること。なお、プール横から入水する選手は、予選では組の紹介後、決勝ではゲート入場後、自レーンで衣服を脱ぎ、速やかにプール横に移動すること。(予選では選手紹介は行わないので、組の紹介が終われば、速やかに移動すること。)
- ・ 聴覚障がい選手のスタートは、光刺激式スタート合図システムを使用する予定である。システムの不具合等が発生した場合は、ハンドシグナルとフラッシュライトにより行う。(再掲)
なお、手話通訳による合図は行わない。

6 ゴール後は……

- ・ 全選手が泳ぎ終わるまで自レーンで待機すること。待機した選手は、全選手が泳ぎ終わった後、審判長の2回のショートホイッスルの後、原則として1~4レーンの選手は1レーン側のプールサイドから、5~8レーンの選手は8レーン側のプールサイドから退水すること。

7 視覚障がいの選手は……

- ・ S11/SB11/SM11 クラスで、CoE(RE)「B」の選手は、透けて見えない黒のゴーグルを着用すること。競技終了後、プールサイドで確認する。
- ・ S11/SB11/SM11 クラスの選手は、ターンとゴールの際、タッパーが競技者にプールの端に近づいたことをタッピングにより、知らせなければならない。S12/SB12/SM12 クラス、S13/SB13/SM13 クラスの選手にはタッピングの義務はないが、タッピングをしてもかまわない。但し、競技者がプールの端に近づいたことを音声によって知らせることは許されない。競技役員はタッピングを行わないので、タッピング用のデバイスならびにタッパーは各自で用意すること。

8 手話通訳者

- ・ 手話通訳者は、原則として招集所付近の手話通訳者席に配置し、必要に応じ、各所で通訳を行う。

9 表彰

- ・ 決勝のレース終了後、各クラス3位入賞者までをまとめてスタート側プールサイドで表彰を行う。

完泳した選手で希望する者に記録証を授与する。記録証は記録証受渡所で渡すので、参加当日の全競技終了後30分後までに各自で申し込み、受け取ること(記録証の郵送は行わないので各自留意すること)。

10 記録速報の掲示

- ・ 記録速報の掲示は3階速報所にて行う。また、ジャパンパラ競技大会、JPSF のホームページ及び JSFP ホームページに随時アップロードする。

11 受付および練習について

- ・ 選手受付は1階で行う。
- ・ 受付開始時間は、【公式練習日】9月12日(金)12時30分、【大会1・2日目】13日(土)、14日(日)8時15分、【大会最終日】15日(月・祝)は、7時45分とする。
- ・ メインプールは、12日13時～17時(レーン指定、水深2.0m)、13日・14日・15日の予選前は、受付開始後から予選競技開始時刻20分前まで使用できる。予選終了後から、決勝競技開始20分前までは当日の決勝進出者のみが使用できる。
- ・ 公式スタート練習は、公式練習日は、14時～14時30分、15時30分～16時に行う。大会開催日は、予選前各練習終了時間の30分前から行う。
- ・ サブプールは、13日～15日の受付開始後から決勝終了後30分まで使用できる。※12日は使用できない。
- ・ パドル、コードは使用禁止とする。
- ・ ダイビングプールは、大会期間中は原則として使用禁止とする。

12 アンチ・ドーピング

- ・ ドーピング検査の実施については、開催要項の記載による。
- ・ ドーピング検査の結果、陽性反応となり、違反が認められた場合は、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。

13 水着・所属表示等について

- ・ 本大会の水着に関する規定は、原則としてすべて世界水泳連盟及びWPSの競技規則による。選手は世界水泳連盟公認の水着を着用すること。
 - ・ 水着のチェックは招集所で行う。
 - ・ 規定に外れる水着を着用して泳いだ場合の記録はすべて参考記録扱いとなり、決勝への出場はできない。
 - ・ 着用できる水着は1枚のみとし、水着の重ね着は禁止する。
 - ・ 有効な公認マークのついていない水着は、現行の承認水着に関する世界水泳連盟の規定に定められている素材要件を満たしている場合(※)のみ着用が認められる。
※従来の浸透性繊維(オープンメッシュ)の素材(綿、ナイロン、ライクラ)でできており、オープンメッシュ構造を閉じる表面加工が施されていないこと。
 - ・ 水着へのテーピングおよび二次加工は禁止する。ただし、障害上の理由で、着用に問題がある場合は、申し出ることによって規定外の水着の着用を例外的に認めることがある。該当レースの1時間前までに「規定外の水着使用申請書」をリゾリューションデスクに提出し、判断を仰ぐこと。記録の公認については内容によってその都度判断する。
 - ・ 競技エリアで着用するユニホーム等の表示は、介助者、スタッフを含め次のもの以外は認められない。
 - ① 自分の氏名、所属の名称やマーク
 - ② 国旗・国または地域の名称、都道府県や市町村の名称やマーク
 - ③ 公式競技会および公認競技会のシンボルマークや主催者が認めたもの
 - ④ 水着、ウエア等のメーカーロゴ・マーク
 - ⑤ 事前に所属競技団体(NF)に届出承認がされている、スポンサーロゴ
- ※それぞれの大きさや数については、【表】のとおりとする。

【表】

マークの種類/用途	水着についてよい大きさと数	ウェアについてよい大きさと数	その他のものについてよい大きさと数
自分の氏名、エントリーした所属の名称、マーク、国旗・国または地域等の名称やマーク、公式・公認競技会のマークや主催者が認めたもの。	50 cm ² 以内で1か所。	大きさ、数に制限なし。	大きさ、数に制限なし。
メーカーのロゴ・マーク	メーカーロゴまたはマークは30 cm ² 以内で1か所。	メーカーロゴは40 cm ² 以内で1か所。 マークは20 cm ² 以内であれば数に制限なし。	メーカーロゴは20 cm ² 以内で1か所。 マークは20 cm ² 以内であれば数に制限なし。
NF から事前承認されたスポンサーロゴ	30 cm ² 以内で1か所	40 cm ² 以内で1か所	20 cm ² 以内で1か所

※1 それぞれの大きさ(サイズ)は着用前の面積とする。採寸方法は正方形または長方形とみなし、縦×横で面積を求める。それぞれの面積は最大を示し、その範囲内であれば大きさに規定はない。

※2 ワンピース水着の場合は、ウエストより上に1つ、ウエストより下に1つ許され、ツーピース水着の場合は、上部に1つ、下部に1つが許される。ただし、これらの商標名は相互に隣接しておくことはできない。

14 クラス分け

- ・ クラス分けは、競技中の観察も含まれる。クラス分け委員の指示に従うこと。
- ・ 適切な医学的情報の提出がない場合、あるいは持てる能力を発揮しない場合などで「クラス無し(非協力的、意図的な虚偽申告等)」と認定された場合、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。また今大会以降のWPS 公認競技会には、参加できない。
- ・ 競技観察の結果、出場したクラスから変更になった場合、確定したクラスでの記録となる。
- ・ クラス分けについては、JPSF ホームページ掲載「2025J-FCS クラス分け規則」を参考にすること。

15 傷害のある選手

- ・ 傷口が開いている等、テーピングや絆創膏を必要とする傷害のある状態で出場を希望する選手は、事前にリゾリューションデスクに申し出たうえで、本大会メディカルスタッフの許可及び審判長の承認を得なければならない。許可及び承認を得ないで出場した場合は、失格となる。

16 国際登録選手と記録の公認

- ・ IPC のライセンスプログラムに基づき、WPS ライセンス登録をした選手については、WPS へ記録を報告する。

17 その他

- ・ 予選と決勝の間に休み時間をとる。
- ・ 会場における事故等については、応急処置のみとし、その他の責任は負わない。
- ・ 室温は28度位、水温は28度位とする。
- ・ 忘れ物については、大会会場で3か月保管した後、処分する。
- ・ 感染症等の拡大、異常気象等のために大会の日程を変更、または中止する可能性がある。各選手は主催者(JPSA)のホームページ等を随時確認すること。
- ・ 宿泊については、各自で手配を行うこと。

以上